

令和元年度在宅医療・介護連携推進協議会会議録

1 開催日時

令和元年8月7日（水）午後6時30分～

2 開催場所

生涯学園都市会館（まなび学園）3階 第3学習室

3 出席者

在宅医療・介護連携推進協議会委員 13名

一般社団法人花巻市医師会 三浦良雄、花巻市歯科医師会 畠山良彦、花巻市薬剤師会 山田祐司、公益財団法人総合花巻病院 澤田正志、岩手県立中部病院 星野彰、岩手県訪問看護ステーション協議会 平澤利恵子、花巻地区看護管理者会 佐藤久美子、花巻市ケアサービス事業所連絡協議会 狩野隆史、花巻市介護支援専門員連絡協議会 熊谷雅順、社会福祉法人花巻市社会福祉協議会 根子祐司、県南広域振興局保健福祉環境部 昆秀博、岩手県中部保健所 菊池直樹、花巻市中央地域包括支援センター 伊藤文子

市 7名

健康福祉部長 高橋靖

健康づくり課長 阿部勇悦

地域医療対策室長 長山義博

長寿福祉課 佐藤拓史、久保田和子、鎌田晶子、中村温子

4 各委員へ委嘱状交付

（久保田補佐）

開会に先立ち市長に代わり高橋健康福祉部長より委嘱状を交付する。

お名前を読み上げるので、委員の皆様は席で待機しお受け取りいただきたい。

任期については令和元年8月1日から令和3年7月31日までとする。委員の皆様にはどうぞよろしく願います。

5 議事録

（久保田補佐）

ただいまより令和元年度花巻市在宅医療・介護連携推進協議会を開会する。皆様におかれては、ご多忙のところご出席いただき感謝申し上げます。開会にあたり、高橋健康福祉部長よりご挨拶申し上げます。

(高橋部長)

仕事終わりに、ご出席いただき感謝申し上げます。市長がご挨拶申し上げますところだが本日夕刻まで公務があるため、市長に代わりご挨拶申し上げます。

まずは、日頃から当市の高齢者福祉・介護保険、健康づくりなどに、多大なるご支援、ご協力をいただき大変感謝申し上げます。また、本日お集まりいただいている在宅医療・介護連携推進協議会だが、ご案内の通り保健・医療そして福祉、それぞれの関係者・代表者の方にお集まりいただいて、その中でそれぞれの連携、そして、理解を深めていただくことを目的に設置されている。さらには、この下の（その他の）組織として在宅医療介護連携推進会議があるが、こちらの会議にも推進員をご推薦いただいている。在宅医療と介護の連携推進にわたる様々な課題の解決ということでご対応いただき、本日のご出席と合わせて御礼申し上げます。そしてまた、この会議は平成29年度から開催している。今まで2年間検討している訳だが、その成果として、退院時情報提供シート作成による連携ツールの作成、介護そして医療等の周知のパンフレットを作成し活用させていただいている。

さらには、北東北では当市が最初の取り組みとなった医療介護情報提供システムである、「けあプロ Navi、ケア倶楽部」などを開設したことで、顔が見える関係づくり、あるいは、連携の仕組みづくり等のご協力、そして、実際に取り組んでいただいた。そしてまた、この推進会議だが、今までの取り組みの中で、今後の推進事業として8つの取り組みをご提案申し上げている。これに対する具体的な内容の検討ということでステップアップを考えている。そのために本年度の説明をさせていただくが、個別具体的なことを関係機関と連携しながらさらなる検討を進めていきたい。

本日の会議は、昨年度の当ケア会議の事務実績及び、今後の取り組み、本年度の事業計画について説明させていただきたい。皆様のご忌憚のないご意見をいただきながら有意義な振り返りということを進めさせていただきたいので、よろしく願います。

(久保田補佐)

本日の司会進行を務めさせていただく。

本日の会議には、委員14名中過半数の出席をいただいている。花巻市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱第6条第2項の規定により、会議の成立を報告する。併せて、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、公開する会議となるため、会議の傍聴を希望する方がある場合はこれを認めると共に、会議資料・会議録を市のホームページで公開することを申し添える。

次に、次第には記載されていないが、花巻市の体制も変わったことから、委員の紹介並びに、出席者の紹介をさせていただく。

(本日の出席者名簿にそって、委員及び花巻市の職員を久保田補佐より紹介。岩手

中部地域リハビリテーション広域支援センター高橋研介氏は欠席)

次に、次第3の会長及び副会長選出に移らせていただく。選出については花巻市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱第5条第1項の規定により委員の互選となっているが、どのような選出方法がよいか。

(事務局一任の発言で異議なく、事務局から提案。)

(佐藤課長)

三浦良雄委員へ会長を依頼したい。

(異議なく会長に選出)

(久保田補佐)

副会長の選出方法について意見を求める。

(事務局一任の発言で異議なく、事務局から提案。)

(佐藤課長)

狩野隆史委員へ副会長を依頼したい。

(異議なく副会長に選出)

(久保田補佐)

三浦会長よりご挨拶を頂戴する。三浦会長よろしく願います。

(三浦会長)

医師会の三浦である。ご多忙のところ、本日の出席に感謝申し上げます。平素は在宅医療介護にご尽力いただき感謝申し上げます。在宅医療介護は地域包括ケアシステムにおいて非常に大切なものである。

花巻市でも90歳代、80歳代の高齢の方がしだいに多くなっている。そのような方が申請を受けられた場合、在宅医療介護が非常に力を持ってくる訳である。その連携の推進をどのようにするか考えなければならない。本日はよろしく願います。

(久保田補佐)

協議に移る。議長は花巻市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱第5条第2項の規定により会長となっている。三浦会長、よろしく願います。

(三浦会長)

初めに、4の協議(1)平成30年度花巻市在宅医療・介護連携推進事業の取り組みについての議題について、事務局より説明をお願いします。

(佐藤課長)

平成30年度花巻市在宅医療・介護連携推進事業の取り組みについて、ご説明させていただきます。

(以下、資料1-1に沿って説明)

(鎌田係長)

続いて、花巻市在宅医療介護連携推進のこれまでの取り組みについて、ご説明さ

せていただく。

(以下、資料1-2、1-3、1-4に沿って説明)

(三浦会長)

それでは、今の説明について、委員の皆様からご意見・ご質問等、あったらお願いする。無いようなので、次に移る。協議(2)今後の在宅医療・介護連携の取り組みの方向性について事務局より説明をお願いします。

(久保田補佐)

今後の在宅医療・介護連携の取り組みの方向性について、ご説明させていただく。

(以下、資料3-1から3-3の資料に沿って説明)

(三浦会長)

それでは、今の説明について、委員の皆様からご意見・ご質問等、あったらお願いしたい。

(星野委員)

アドバンスケアプランニング(以下ACPと略す)について情報提供する。先ほどもACPの県民会議に出席してきたので、県の動向が全体的にどのようなになっているか、お話しさせていただきたい。

国はACPを進めて、過剰な医療を減らしたいと掲げている。岩手県医師会としては、皆で県民に向けたことを考えて行きたい。県医師会としては先に、先行して勉強会や仕組みを作ろうかということが前回までの会議内容であった。今回は県が主催の県民会議などとは違い、医療者だけではなく、教育関係者、医療・介護全部含めて色々な人が集まり、岩手県民としての心づもりをどのようにしていくかという話だった。会長である岩手医大緩和ケアの木村教授が中心となり進行し、話し合いの結果、ACPは大きく2に分けて考えたらよいだろうということだった。

一番目は、市民向けに、まずはACPを分かっていたくという動きである。それをまず進めていくうえで、皆から色々な意見がでてくるが、押し付けではいけない。最後の医療について考えなさいと言われてたら、市民県民としては納得いかないだろう。元々ACPの考え方はそのようなことであるが、アメリカでもイギリスでも失敗している。元々のことを考えろと言って国民から総スカンをくらって上手くいかなかった。一つ一つ丁寧に話し合う仕組みを作っていないとACPは上手くいかない。アメリカ・イギリスの失敗の結果、20年掛けて丁寧に話し合いをしたことで、今は成功しだしている。実際、丁寧に話し合う仕組み作り(ノートを作りたいのではなく)、が大事だという世界の流れになっている。日本はまた戻りかけて、ノートを作れば良いだろうになっている。県民会議では、ノートを作るだけでは駄目で、話し合う仕組み作りが大切だとなった。花巻市でもどのようにして普及啓発するか、丁寧な仕組み作りを考えていくことは良いことだと思う。

二番目は、こちら側が勝手に押し付けてはいけない。市民と一緒に考える、心づ

もりするのは私達では無く市民。市民と一緒にきちんと、仕組み作りや色々なことに時間を掛けて考えていくということが会議の話題になった。

結局、県民会議では大きなことは決まらない。時間をかけて行いましょうということが話し合い結果であった。最終的にはこんなノートどうでしょうと提案があると思う。その会合の中で、各市町村におろしていく形になるだろうと思っているので、本日報告された動きで良いと思う。ただこれは、勝手にこちら側で作って押し付けてはいけない。私たち皆が、市民と一緒に作っていかないと市民からソッポを向かれる。「なんだよ、何様だよ、自分の最後は自分で考える」という話で、凄くデリケートな問題なので、時間を掛けてほしい。以上が県民会議の情報である。

北上市内では2年間かけて取り組んできた。市民の皆さんと一緒にノートを作り、今市民の皆さんと対話している。この前、花巻市でも生涯学園都市会館で行った。市民の皆さん20人で、北上市のノートを使いながらACPを説明した。花巻市民の皆さんも良い感じだったので、花巻市でも一緒にやっっていこうと思っている。

(三浦会長)

星野先生に感謝申し上げます。

市でも市民との話し合いを考えていくということで良いか。

(佐藤課長)

はい

(三浦会長)

協議(3) 令和元年度花巻市在宅医療・介護連携推進事業計画について事務局より説明をお願いします。

(佐藤課長)

令和元年度花巻市在宅医療・介護連携推進事業計画についてご説明させていただく。こちらは、計画・スケジュールの案を書かせていただいた。

(資料2にそって説明)

(三浦会長)

それでは、今の説明について、委員の皆様からご意見・ご質問等をお願いしたい。

議長からで申し訳ないが、今までの進め方は、市役所内だけで行ったのでないということが良いか。今までの資料をまとめたのは、他の構成団体も理解しているのか、説明を希望する。

(久保田補佐)

今回提示した資料については在宅医療介護連携推進会議で委員の皆様と話し合った結果を基にまとめ、その都度都度委員の皆様には見ていただき、手を加えるところは手加え、修正するところは修正し、在宅医療介護連携推進会議の委員の皆様と情報を共有している資料となる。市が勝手に作成した資料ではなく、情報共有しながら合意形成し作成した資料である。説明不足で申し訳なかった。

(三浦会長)

私も認識不足だった、今の説明で理解できた。

(畠山委員)

要望として発言する。

この協議会の位置づけがはっきりしない。資料には色々記載しているが、推進会議のメンバーが毎月のように集まり、色々なグループワークを行い検討した材料が、本日初めて提示された。はっきりと言えば、年度をまたいでいる。4月に推進会議が開催されているが、事前に協議会にある程度の報告をしなければ、協議会はただの報告会で終わってしまう。密度の濃い協議をして、ずいぶん頑張っているなどという様子は伺えるが、本来ならば3月にこの協議会を開催するべきではないか。これで推進会議は3月25日まで開催すると報告しているが、推進会議の報告を協議会委員はいただけるのか。例えば、協議会委員と推進会議委員を兼ねている団体もあるかもしれないが、この会議の位置づけが分からない。必要なものを花巻市に提言したり要望するための協議会であると私は認識している。現場の話だけで、それを報告してくるのであれば、本日の資料を郵送するだけでよいのではないか。資料も協議会開催当日配布、開催案内も3日前、これではあまりにも拙速すぎではないか。推進会議委員からはその都度報告を受けているが、かなり範囲が広いため話はまとめ難い。しかし、ある程度のところで区切り、まとめ上げて団体ごとか、または、年度内かは分からないが、まとめ上げて団体でこちらに持ってきてもらう。そこで、これはすごく良いねと、花巻市で頑張りましょうよというのが、この協議会の位置づけだと私は考えている。3月に協議会を開催するかと思っていた、新年度の4月になっても開催案内がなかった。やっと8月に開催、事務的な手続き等があるかもしれないが、推進会議と協議会の会議の位置づけを明確にさせていただかないと、意見が出難いのではないか。この資料を読んで会議の内容を勉強しないと意見が述べられない。

星野先生が話した内容も含めて勉強する時間や予習する時間がない。そういう意味では、もう少しこのやり方を改善したほうが良いと私は要望する。

(澤田委員)

今、畠山委員が話されたことは、確かにもっともだと聞いていた。推進会議は資料で報告された通り、こまめに活動している。確かに協議会が年1回の開催では報告会だと思う。集まることが大変で、委員の皆様にはご迷惑となると思うが、例えば、年2回なり3回なり協議会を開催し、毎回、前回の協議会からその次の協議会までの間の推進会議の動きとか、どのようなことが出されたか、そのようなことを上げさせていただき、その都度協議会委員の皆様からご意見をいただき、それをまた推進会議にフィードバックしていく形式はいかがか。

(三浦会長)

ここで、推進会議に出られている委員の皆様から今までの印象を聞きたい。
平澤委員も推進会議のメンバーであったが、いかがか。

(平澤委員)

今までの印象として、ゆっくりしか進行できない印象が強い。2年間で問題を抽出し、問題が沢山あると委員間で共通理解した。今回から少しパターンが変わり、三つのグループに分かれ、色々な話が出ていく中で、小さなコアなところを数人で色々なことを決めていくには情報が不足しているなどで、なかなか前に進んでいかない印象がある。私は推進会議に出席しているため、大体内容を把握し分かっている。畠山委員が話された通り、遅々として進まない何回かの会議開催の内容を一気に報告されても確かに内容を把握できないことがあるだろうと思う。

澤田委員が話されたような形式では、進行が遅い会議の内容を分かっていたのかなどの思いもある。会議として皆さんに集まっていただくというより、今回の会議ではこのようなことが話し合われ、このような方向で進行していくというような情報を協議会委員の皆さんへ何らかの方法で情報提供することで、推進会議開催当日に、どのようなことがあり、どのような意見が出され、どのように考え、どのような方向に進行したかが、見えやすいかなと考える。

(三浦会長)

確かに、医師会の理事の推進会議委員から報告は受けているが、少し内容が異なるところがあるなど、本日の報告を聞いていた。これから、何か決めた度に連絡が入り、推進会議の内容が見えればよいだろう。

(畠山委員)

推進会議の報告手段としてインターネットの利用は可能か。

(佐藤課長)

利用可能である。

(畠山委員)

インターネットに載せてもらえれば、時間に余裕があるときに会議内容を閲覧する。閲覧することで推進会議での検討内容がイメージできる。何度も集まることは物理的に難しい部分もあるので、インターネット配信を検討してはどうか。

(佐藤課長)

検討させていただく。

(澤田委員)

推進会議の議事録をその都度インターネットで配信し、協議会委員の皆様を確認していただくということでよいか。

(畠山委員)

あまりにも幅広い検討内容なので、推進会議の要点のみを配信してほしい。配信された情報で協議会開催前の準備が可能となる。

(澤田委員)

推進会議の議事録の要点をその都度インターネット配信できるのであれば、そこに、協議会委員の皆さまが配信された内容を見られて、ご意見を出していただける形式をインターネット上に展開できるようにしていただきたい。推進会議自体も固定されたメンバーで運営しているため、考えが煮詰まってしまうこともある。他の意見も取り入れることで、問題解決の一助になる可能性もあると考える。

(佐藤課長)

推進会議で利用している CYBOZU の利用が可能か検討する。

(三浦会長)

今、結論は出ないと思う。もう少し事務局や推進会議でも議題として取り上げ、協議していただきたい。

他に皆様から全体に対してのご意見・ご質問はないか。

(昆委員)

一般的に在宅医療介護連携において、人材不足・スタッフ不足ということで絶対数が足りないということと、専門的スタッフが育たない・いないことが大きな課題の一つとしてあげられている。そのような中、これからの取り組みで、多職種が集う取り組みを定期的に行っていくプランが示された。実際に7月に本年度第1回目を開催したと報告を受けたが、参考までに紹介してほしい。

(久保田補佐)

多職種が集う会については、平成27年の末から通算8回開催。平成27・28年度については、在宅医療介護に係る課題抽出の視点で開催、平成29年度から抽出された課題を整理し多職種での話し合いが必要な課題、例えば口腔の問題・口腔と栄養などの課題を取り上げひとつひとつ取り上げ話し合っている。

7月は120人程が参加し、口腔の課題について研修会を開催。在宅の高齢者の口腔内をきちんと把握するという視点で研修・グループワークを行った。

(三浦会長)

昆委員へも多職種が集う会の案内状を差し上げればよいと思う。

(昆委員)

集う会では、スキルアップと共に課題としてだされた、横の連携の不十分さを何らかの形で埋められるようなシステムになっているのかと思い質問した。

案内をいただいて参加し、横のつながり感が見えることが有効に進むような集いであることを期待する。

(三浦会長)

他に何かあるか。

(平澤委員)

北上市、岩手県の ACP の進み方は星野先生から先ほどどうかがった。花巻医師会で

はACPの取り組みをどのように考えているのか聞かせいただきたい。

(三浦会長)

花巻市医師会でも委員を立てて検討はしているが、まだ把握段階ではない。県へも委員を出し検討しているが、花巻市医師会は取り組み始めであり進んではいない。

(平澤委員)

県の動向を見てというところか。

(三浦会長)

その通り。県民会議、ACPを考える委員が会議をもって情報を持ち帰る。それを見据えて取り組んでいるところである。

(平澤委員)

会議を進めていく中で、医師会は絶対外せないところである。いち早く情報をいただけると助かる。よろしくお願いします。

(三浦会長)

はい。よろしくお願いします。
他にあるか、なければこれで4の協議を終了し事務局にお返しする。
議事進行の協力に感謝申し上げます。

(久保田補佐)

三浦会長、感謝申し上げます。
次第5のその他だが、皆様からこの場で何かあるか。

(高橋部長)

皆様からなにもないということなので、最後に私から一言申し上げます。
本日は大変お忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。また、本日いただいたご意見、特に、在宅医療・介護推進協議会の在り方の部分だが、私的考えとして推進協議会の下には推進会議があるが、やはり、それを受けた上でそこで出された話の中身を俯瞰した立場で、さらにご意見をいただける場と捉えている。このようなことから、今後協議会の在り方・進め方、提案されたインターネットの活用を含め事務局で検討を進めさせていただくので、よろしくお願いします。
本日は感謝する。

(久保田補佐)

これをもって、令和元年度花巻市在宅医療・介護連携推進協議会の会議を閉会とさせていただきます。本日はお疲れのところ参加いただき感謝申し上げます。